

図書だより



2024年1月号

今年も素敵な本との出会いがありますように



★冬休みに借りた本

返却日：1月12日（金）まで

忘れずに返しましょう



★新春限定！特別企画 おみくじ

1月10日から、図書館でおみくじが引けます。

本を借りて引いてみよう！

恋愛、学業、エトセトラ、あなたの運勢占います。何が出たって大丈夫、

開運本があわせて紹介されています。これを読めば開運間違いなし！

おみくじはなくなり次第終了です。やりたい人はお急ぎください。

おみくじ引いて今年の運を呼びこもう！



あります！

★POP コンテスト 締め切り迫る！

図書館では、ただ今、本のPOPを大募集中。面白かった本をPOPで紹介しよう。優秀作品は表彰します。たくさんの応募をお待ちしています。

締め切り：1月31日（水）

形式は自由・手書き・本の題名は必ず入れること

画用紙、図書館にあります！

★ワークショップ 飛び出すしおりを作ろう



寒い日が続きますね。放課後のひととき、図書館で小さな手仕事をしてみませんか？本の上からちょこんと飛び出す、しおり作りのワークショップを開催します。ほっこり暖かな時間を過ごしましょう。

1月18日（木）14時30分～15時

申し込みは図書館まで



★校長先生に聴きました

校長先生は本がお好きで、よく図書館にも来られ、本を借りていけます。渋谷中学にいらしたときは、貸出冊数が生徒を抜いて、校内1位になったこともあるそうです。そこで校長先生に、ご自身と本との関わりについてお話を伺いました。

◇お忙しいと思いますが、どんなふうに本を読む時間を作っておられますか？

◆寝る前に布団の中で読むことが多いです。あとは、ちょっとしたスキマの時間、例えば、お湯を沸かしている間にも読んだりします。いつでも読めるようにいつも手元に本があります。家には2000冊くらいは自分の本があります。

◇どんなジャンルの本が好きですか？

◆歴史小説です。特に古代中国の歴史小説が好きでよく読んでいたので、映画になった「キングダム」の登場人物は知っている名前もありました。

好きな作家は宮城谷昌光で、特に「楽毅（がっき）」（新潮社 全4巻）という作品が好きです。

◇子どものころから本を読んでおられましたか？

◆家族がみな本好きで、本なら買ってもらえました。父や姉ほどではなかったですが、読んでいました。

小4のとき、読書感想文の課題図書だった「極北の犬トヨン」（ニコライ・カラーシニコフ/徳間書店）を読みました。これが初めて自分から進んで読んだ長い本で、それ以降、長い本も読むようになりました。

◇中学の時にはよく本を読んでおられましたか？

◆すごくたくさんではありませんが、読んでいました。友達と本の話をして、面白い本を見つけていました。星新一や筒井康隆のSF小説が好きでした。その後、高校の時には庄司薫の「赤ずきんちゃん気をつけて」シリーズ（新潮社）にはまりました。

◇今、中学生に読んでほしい本は何ですか？

◆「星を継ぐもの」（ジェームズ・P・ホーガン/東京創元社）
「トンデモ超常現象99の真相」（と学会/洋泉社）です。

担任をしていたとき、学級文庫には必ず入れていました。薦めたら、これらの本を好きになった生徒がいたことを思い出します。S中のみなさんにも読んでもらいたいです。



竜の本

★今年は辰年

いろいろあります

犬塚先生からおすすめ

小説

「ドラゴンの塔 上・下」

謎が謎を呼び、次々と暴かれる真相にあなたの心はわしづかみにされる！

女は強し！アグシュニカ、カシア、そしてハンナ王妃。3人のスーパーレディが男を圧倒する。

10年ごとに「ドラゴン」と呼ばれる魔法使いに差し出される娘。見返りに、ドラゴンは村を守ってくれる。ヤマタノオロチとか、日本にもこの手の話、ありますよね。違っているのは、英雄が現れて娘を救うというハッピーエンドストーリーではなく、娘自ら戦うシチュエーションであること。ただし、戦う相手は「森」。えっ！？そうなんです。限りなく恐ろしいパワーを持つ森。体を乗っ取られた人間は、一種の化け物になってしまう。その「森」と戦う魔法使いのドラゴン、アグシュニカ、カシアの物語。前半は、森に囚われたハンナ王妃救出大作戦。「森」なのに邪悪な意志を持つそれは、あちらこちらにわなを張り巡らし、アグシュニカたちは命からがらの目にあう。それでも、無事、王妃を森から助け出すことに成功するが…。とにかく、「森」に乗っ取られた人間たちが怖い。乗っ取られたことは一見わからないのだ。襲われるまでは。

戦闘シーンは殺戮の連続で、ハンナ王妃が情け容赦もなく、刀を振るうシーンにはぞっとさせられる。そんな中、アグシュニカとドラゴンのロマンスはユーモラスでほっとさせる一コマ。実際のドラゴンが暴れまわる話ではありませんが、ストーリーのスピード、意外性は、まさにドラゴンが暴れるがごとし。確実に、一気読みさせる作品です。

ナオミ・ノヴィク
/静山社
(933ナ)

「竜の騎士」

銀の竜、ルングは最後の生き残りだった。竜を狩り、むさぼり食らう黄金の竜ネッセルブラントに仲間を食われてしまったのだ。だが、「空の果て」に生き残りの竜たちがいるという。仲間を探すため、ルングは、旅立つことを決める。竜に乗ることのできる不思議な少年ベンと共に。

ネッセルブラントを創造したのは錬金術師ペトロジウス。一種のマッドサイエンティストですね。金の生成に竜の角が必要だと、ネッセルブラントを創ったものの逆に食われてしまうのです。自然の生き物を改造して怪物を生み出す。ここには著者フンケの、人間による終わりのない環境破壊に対する怒りが込められているのかもしれない。

とはいえ、このファンタジー、奇想天外な登場人物とハラハラさせられる冒険ストーリーをともかく楽しんでください。凶悪なネッセルブラントは救いようもない悪の塊。その他、一見猫そっくりの外見で、キノコが大好き。口の悪さは天下一品の妖精「シュヴェーフェルフェル」やネズミのパイロット、バジリスクや巨鳥ロックなど次から次へと個性的なキャラクターがストーリーを彩ります。月の光を浴びないと飛べないルング。竜の火を浴びせても、傷一つつかない怪物ネッセルブラントをどうやって倒すのか。竜の騎士であるベンの優しさが、裏切り者だった飛び脚の心を動かす。飛び脚は、はじめ善悪半ばした存在ですが、途中からネッセルブラントを倒すための重要なポジションを務めることになるのです。

コルネーリア・フンケ/WAVE 出版
(943 フ)

宗教

司書のおすすめ

「神社のどうぶつ図鑑」

神社に行くと、狛犬やキツネなど、いろいろな動物の像がありますね。なぜ神社に動物がいるのでしょうか？

神社の神様は姿を現さないのが、動物が代理として人間に意思を伝えると考えられ、それぞれの神様にゆかりのある動物がまつられているのだそうです。その動物は、神社によって千差万別。ヘビやムカデ、タコやナマズ、想像上の龍や鳳凰…。この本は、なぜその動物がまつられているのか、由来や歴史、どこの神社にいるかが書かれています。昔の人が神様や動物をどのように見ていたのか、古代の考えに触れてみませんか。

茂木貞純/
二見書房
(175 シ)